

# 政治経済学 II

## 第6回：党派性、世論と格差

矢内 勇生

法学部・法学研究科

2015 年 5 月 20 日

## 今日の内容

### 1 格差の現状と研究課題

- 格差の現状
- 研究課題

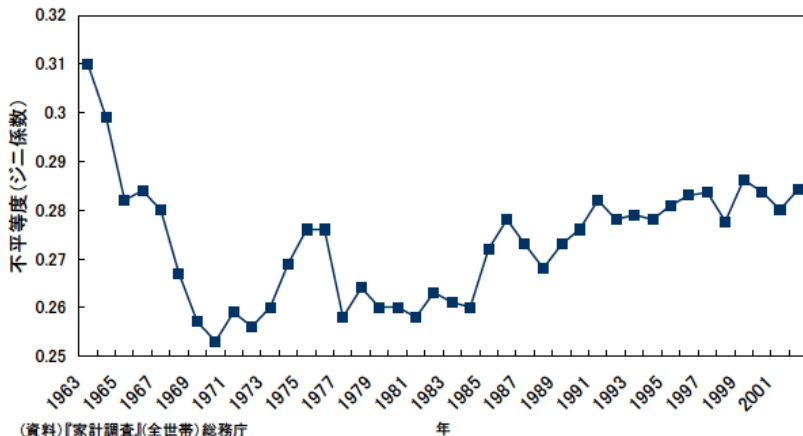
### 2 格差の政治的要因？

- 党派性と格差
- 世論と格差

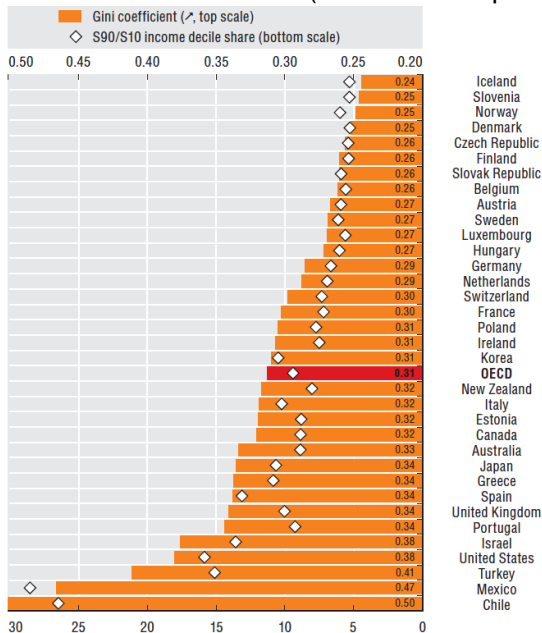
## 経済格差の現状

- 1980 年代以降、経済格差は拡大傾向
- 先進国全体で観察される現象
- 拡大の程度・速度は国ごとに異なる

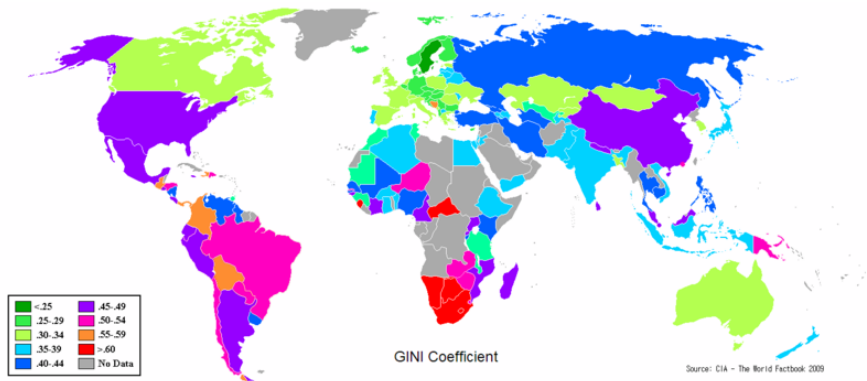
## 日本における経済格差の変化



# 格差のばらつき：2010 年の所得格差 (OECD 2011: p.111)



## 格差のばらつき：世界のジニ係数 (CIA 2009)



## 格差の原因は？

### 大きなリサーチクエスチョン

経済格差の程度を決める要因は何か？

### 比較政治経済学からの問

- 国家間の格差の差異は、政治的要因によって決まるか？
- どの政治的要因が重要か？

## 政府の影響？

政府が格差を左右する？

- 大統領・首相の資質・目標の違い？
- 政権を担当する政党による違い？
- 政府による違いはない？

経済格差が経済競争（のみ）の帰結なら

- 誰が政府になるかは（民主制である限り）影響しないはず
- 政府が格差に影響するということはどんなことを意味する？



## 中位投票者定理

### 中位投票者定理 (Median Voter Theorem)

多数決投票 (過半数投票, majority rule) では、中位投票者が最も好む結果が選択される (Black 1948)

#### 簡単な説明

- 投票に参加する人数： $N$  (単純化のため、奇数と仮定)
- 個人は  $\pi_i$  (希望する所得政策) の大きさに整列：

$$\pi_1 \leq \pi_2 \leq \dots \leq \pi_N$$

- 中位投票者： $m = \frac{(N+1)}{2}$
- 任意の政策  $p$  vs.  $\pi_m \rightarrow$  必ず  $\pi_m$  が勝つ

- $p < \pi_m$  :  $m$  と  $i > m$  となる  $i$  の計  $N/2 + 1$  人が  $\pi_m$  を支持
- $p > \pi_m$  :  $m$  と  $i < m$  となる  $i$  の計  $N/2 + 1$  人が  $\pi_m$  を支持

$\rightarrow \pi_m$  はコンドルセ勝者 (Condorcet winner) である

## 政府は中位投票者に従う？

- 政府は中位投票者に従うのか？
- 政府が経済格差に影響すると仮定
  - 政府が中位投票者に従うとすると・・・
  - 政府が中位投票者に従わないなら・・・

## 党派性 (partisanship)

- 政党による政策選好の違い
  - 経済政策の党派性：大きな政府 vs. 小さな政府
- 政党の党派性：他の政党との政策的距離
- 有権者の党派性：特定の政党を他の政党よりも好む程度

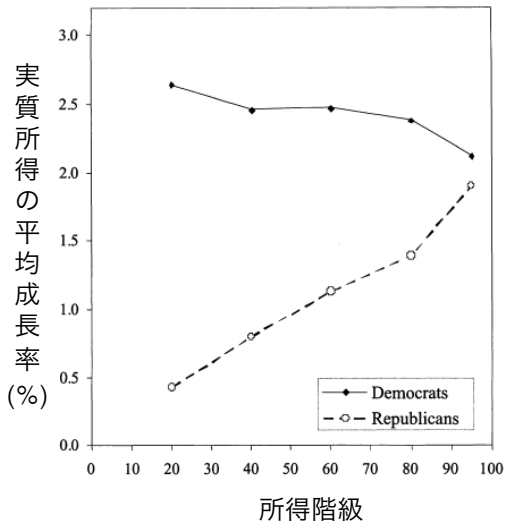
## 党派性の単純化：左右の対立

- 党派性を 1 次元で捉える
- 問題： **どの次元が重要か？**

### 代表的な党派対立

- 米国：民主党 vs. 共和党
- 英国：労働党 vs. 保守党
- フランス：社会党 vs. 国民運動連合
- ドイツ：社会民主党 vs. キリシト教民主同盟
- 日本（55 年体制）：社会党 vs. 自由民主党
- 日本（現在）：???

## 米国における大統領の政党と格差の関係



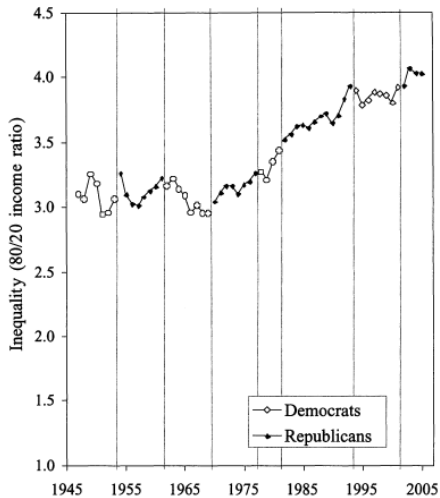
出典：Bartels (2008: p.33)

## 米国の党派性と格差の関係が示すこと

- 党派性が重要である
- 民主党政権では、低所得者の成長率が相対的にやや大きい
- 共和党政権では、高所得者の成長率が非常に大きい
- すべての所得階層にとって、民主党政権下のほうが成長率が大きい

これは偶然か？

## 大統領と経済格差の変化



出典：Bartels (2008: p.35)

## 他の大統領と経済格差の変化

偶然ではないが、反対政党の政策を正しているだけでは？

- 共和党が緊縮財政 → 政権を引き継いだ民主党が拡張的財政政策
- 民主党が拡張的財政政策 → 政権を引き継いだ共和党が緊縮財政
- 政党は、互いに相手がとった政策の制約を受けている（自分で好きに政策を選ぶわけではない）
- これが正しいなら、政権交代があったときに大きな変化が見られるはず
- 実際は・・・
- 政権交代がないときに、大きな違いが見られる！



## 米国の党派と格差の関係

- 偶然ではなく、党派が経済格差に影響している
- なぜ、党派が大事なのか？
- 党派性の違いはどのようにして格差の違いに至るのか？
  - 民主党の政策的目標は？
  - 共和党の政策的目標は？

## Hibbs (1977) の党派的景気循環モデル

Hibbs, Douglas A. (1977) “Political Parties and Macroeconomic Policy.” *APSR* 71(4): 1467–1487.

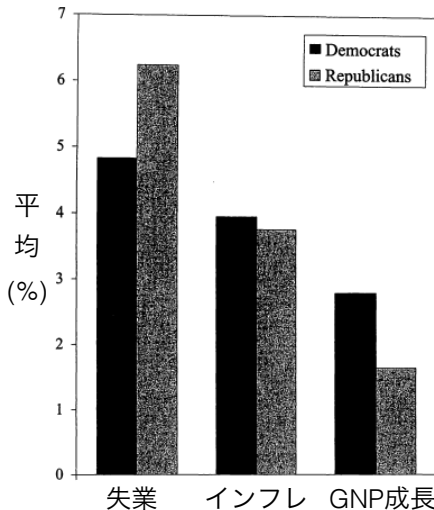
- 各政党は、中核的支持者が好む政策を実施する
- 支持者の選好は、政党ごとに異なる
  - 左派（米国の民主党等）の支持者：失業による損害が大きい
  - 右派（米国の共和党等）の支持者：インフレによる損害が大きい
- 政党ごとに異なる政策目標をもつ
  - 左派政党：高インフレという犠牲を払っても、完全失業、経済拡大を目指す
  - 右派政党：失業の増大という犠牲を払っても、物価の安定を目指す

→ 政権交代によって景気循環が起きる！

## 経験的証拠：USA の場合

- 民主党（左派）政権のほうが共和党（右派）政権より GDP 成長率が高い（政権の 2 年目、3 年目）
- 民主党政権のほうが、失業率が低い：ただし、**政権後半のほうが党派の差が大きい**
- 左派政権のほうが、政権前半のインフレ率が**低い**

## マクロ経済と党派性



出典：Bartels (2008: p.49)

## 有権者と（の）党派性

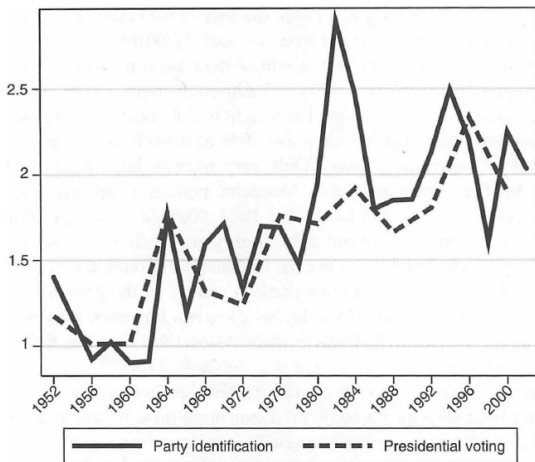
- 格差は政権の党派性によって左右される
- 政権の党派性はどうやって決まるのか？
- 中位投票者の選好（党派性）＝政権の党派性 ???

## 政府は誰を代表しているか？

- アメリカ議会：富裕層の意見を重視している (Bartels 2002; Gilens 2005; Jacobs and Page 2005)
- なぜ？
  - 政治権力としての金
  - 教育格差
  - 政治知識
  - 投票参加
  - 党派性

## 米国における所得と党派性

所得上位20%の共和  
党比率  
/  
所得下位20%の共和  
党比率



出典：McCarthy, Poole, and Rosenthal (2006: p.74)

# 所得と党派

## 所得による政策選好の違い

### 低所得者の政策選好

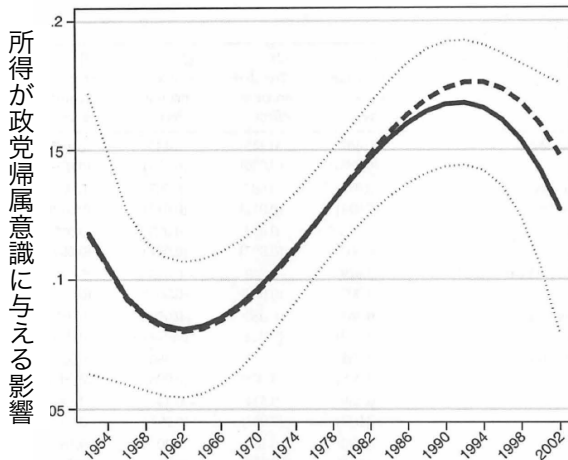
- 低失業 (vs. 高失業低インフレ)
- 増税
- 社会保障の充実

### 高所得者の政策選好

- 低インフレ (vs. 高インフレ低失業)
- 減税
- 自由な（任意の）社会保障・保険

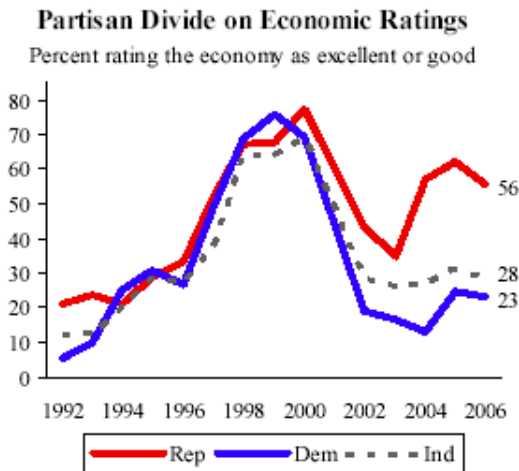


## 党派性の決定要因としての所得



出典：McCarty, Poole, and Rosenthal (2006: p.86)

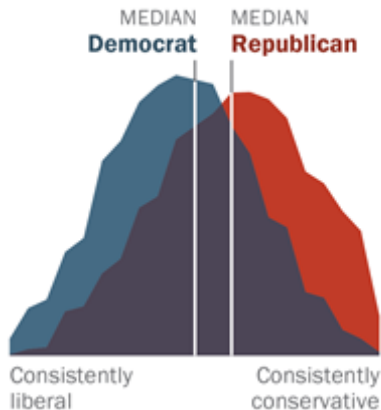
## 有権者の経済に対する評価



Source: Pew Research Center for the People & the Press,  
January 24, 2006 NOTE: 1992 - 2003 data from Gallup

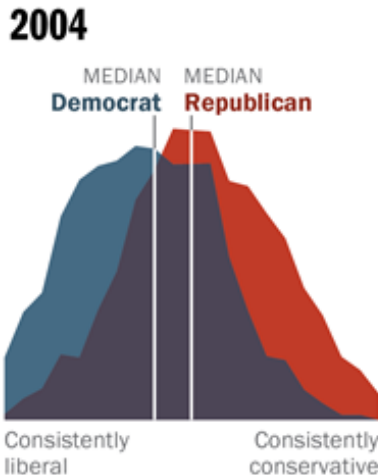
## 米国の有権者の党派性, 1994

1994



出典：PewResearchCenter,  
2014 Political Polarization in the American Public

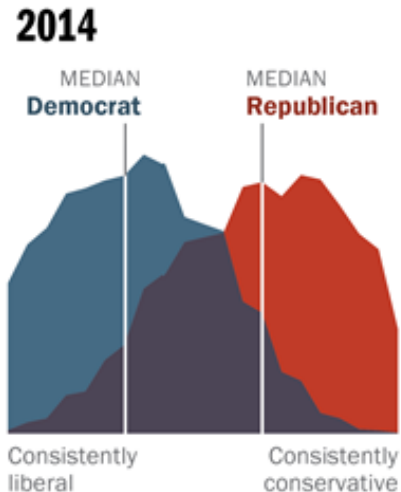
# 米国の有権者の党派性, 2004



— . . .

出典：PewResearchCenter,  
2014 Political Polarization in the American Public

## 米国の有権者の党派性, 2014



出典：PewResearchCenter,  
2014 Political Polarization in the American Public

## 来週のテーマ

### 金銭以外で測る幸福度

- 所得以外の格差
- 所得格差が所得以外の格差に与える影響